

令和 8 年度 第 1 回加賀市立学校施設の在り方に関する検討会議 議事録

【日 時】 令和 8 年 6 月 29 日（月）午後 6 時 30 分～午後 8 時

【場 所】 加賀市市民会館 3 階 大ホール

【出席委員】 中森一郎 加藤美智代 松田小百合 尾崎竜太 増野弘之 平塚智康 北市康德
辻長四郎 西納弘

【事務局】 松本教育長、小林事務局長、伊藤政策官、園田教育総務課長、吉田教育総務課リーダー

【次 第】

1 開会

2 教育長あいさつ

3 検討会議の概要について

4 委員紹介

5 議事

(1) 議長等の選出

会長 福井大学大学院 連合教職開発研究科 教授 中森一郎 氏を選出

副会長 加賀市校長会 会長 増野弘之 氏を選出

(2) これまでの経緯、現状について

教育総務課長 説明

質疑・意見なし

(3) 今後のスケジュール案

教育総務課長 説明

質疑・意見

○委 員

私たちはどの程度、何を検討するのか。4 回で決めるのか。

○事務局

4 回を予定している。場合によりもう一度、二度開催する必要も出る可能性はある。具体的に何をするかは次の議題の構造化で説明させていただく。委員の認識のとおり、非常に回数が少なく、しかし、学校の老朽化という問題はスピード感が必要なため、事務局でできる限り作業をし、皆さまにお諮りする形で進めさせていただければと思う。

○議 長

ほかにご意見はないため、このスケジュールを目安に進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(4)課題の構造化について

教育総務課長 説明

質疑・意見

○議 長

事務局から 2(4)【分解】のところの深堀でワークショップを行うと話があったが、こちらは検討会議とは別に任意でそのような場を設けるということでよいか。

○事務局

メンバーは事務局と検討委員の皆様を想定しており、幅広く皆様のご意見を取り入れられるように、そういう機会を設けることができれば良いと考えている。

○議 長

続いて、2(5)番【探索】が検討会議 2 回目の開催のことか。

○事務局

その通り。

○議 長

スケジュール案と比較しながら構造化の進め方を見ていただくと分かりやすいと思う。

(5)学校施設の在り方に関するアンケート調査の実施について

教育総務課長 説明

質疑・意見

○委 員

アンケートの周知方法について、対象者の子どもや保護者が回答していなければ催促する必要があるのか。学校ごとで答えたかわかるか。

○事務局

基本的には任意のアンケート。期間中は協力をお願いする形で周知をして行く。

○委 員

周知や協力は学校側がするわけではないのか。

○事務局

事務局が学校をお願いをして周知いただくという形になる。

○委 員

2点。1点目は、対象者に関する意見で、現在市内の全小中学校にはコミュニティースクール学校運営協議会が設置されている。この学校運営協議会の委員の皆さんに対しても、このアンケート調査をとったらいいのではと思うが、事務局のお考えをお聞きしたい。

2点目は、アンケートの内容について。このアンケートが保護者に送られたらどう答えるか。教育に関心がある方は自分で小中学校の学級数や児童生徒数などを調べて、根拠やベースになるものがあるそこから判断する。保護者や一般市民は、大変忙しい中でアンケートに答えていただくため、そのベースが有るか無いかで、答えが違うと思う。

例えば今日、参考資料が配られているが、この参考資料のような形で、例えば日本では、文科省の示す標準規模はこれだけとか、欧米の学校の規模や、1クラスの人数はこうですと、参考資料があり、閲覧できると保護者や市民もベースとなる。ベースとなるものを用意できれば良い。

同じく5番の学校課題について。こちらも今の加賀市の現状、築年数50年以上の学校がこれだけあること、あるいは、10年後20年後、子供の数が推定される資料をつけてほしい。その課題を知ってるかでアンケートの答え方が違う。資料を見たい方に、比較的容易な方法でウェブ等を使って参考資料などを入れるやり方を考えてほしい。

○事務局

資料について、バランスが難しいがご意見のとおりと思うため、考えていく。

コミュニティースクールについては、基本的に分けることはアンケートの入口のQRコードを配れば可能。このあたり委員から意見を。市民として回答する機会はあるが、属性としての話と思うが、できればアンケートを渡す知恵をいただきたい。

○議 長

今の御発言のコミュニティースクールの委員の方へのアンケートについて、その意図についてもう少し御説明をお願いしたい。

○委 員

コミュニティスクール委員の方々に、一般市民に出すのと同じような形で今回アンケートがありますよ、ぜひ答えてくださいと学校を通して伝えることは可能。コミュニティスクール委員は学校を支え、教職員を支える地域住民。学校に対する重みは違う。先生でもなく、市民でもない。地域の住民代表としてコミュニティスクール委員から意見を聞くことは意味がある。

○議 長

今の御説明等も踏まえて、ほかの委員の皆様、このあたりどういうふうにお考えですか。

○委 員

私は中学校のコミュニティスクール委員で、毎月の挨拶運動を通して、生徒を見てくれる住民からの意見等いただく機会があり、役に立っている。

新しい学校の検討委員会をしているが、10年、20年先のこと。このアンケートは、今子育てをしていてどう思っているか現状に対して考えているが、例えば、10年前は私たちが想像しなかった熊やスマホの問題はなかった、自転車違反で罰金を取られることは想像できなかった。10年前、そんなこと想像できなかったけど、今こんなことが起きてますよと例があると少しその未来を少しだけ想像してこんなふうを考えてみようかと考え方ができるのでは。

そのような情報をリンク先やホームページにあって、関心のある人がたどり着いて、そんな意見ももらえる仕組みが、アンケートをとるときに、1回そこ見てという場所もあった方がいいのかなと個人的に感じた。

○議 長

ありがとうございました。全くそのような視点を持っていなかった。予想をしなかった未来を振り返り。他はいかがですか。

○委 員

今の意見に関連して。よりよい教育とはどんなイメージを持たれるか。質の向上について一番のことと挙げられている。1つの学校を建てたら、10年20年ではないと思う。今よりより良い教育って答えられますか？

○委 員

このアンケートは広く、保護者や子供たちからの価値観を拾い上げだるものと思っている。その質で見ると、このアンケートが、どうも細かく拾えるものが、例えば安心や安全、防犯などで、間接的には関わるけどもそういうふうに見えて、ぜひですね、1回目のアンケートとしては、こういったターゲットとしてありかなと思っているが、できれば質に直接関わるような、そういった価値観、子供たちから拾っても良いのではと思う。

○委 員

同じく。想像はつかないけど今考えてるのが、加賀市教育ビジョンのリンクを貼っても良いのでは。これを実現するためにどんな施設がいいのかであれば、まだ分かりやすいと思う。意見です。

保護者・市民向けアンケートについて、10ページから。学校の施設は老朽化してますよ、そして少子化もしてますよっていう前提でアンケートに考えてくださいと。Q4ぐらいから答えやすくなっていて、核心はQ5ぐらいであるのかなと思うのですが。

そして、Q7で少人数あるいは大人数がいいのかが多分分かってるだろうなという答えが、狙いとしてもあるんですけども。Q8からすごく細かくなってきて、通学時間というのは1度聞いているのに、さらにここで通学方法と通学時間を細かく聞きたい。

さらに、Q12になると、何となく少人数、小規模の学校がマイナスに思えるような質問項目じゃないかなって私は、感じるんですか。いかがでしょうか。

○議 長

アンケートの質問項目について、事務局で意図等説明できる範囲で、今のこの答えられる部分があればお願いできますか。

○事務局

はい。まず質問の順番で最後に安全安心を持ってきていることにつきましては、いきなり、学校の配置や規模感に関する質問を持ってくると非常に答えにくいだろうなというところもあり、割と簡単で身近なことで考えられるようなところからアンケートを始めている。

質問につきましては、基本的には文科省の手引きにあった課題から、事務局で類似をしているものをまとめたり、項目を減らしたりということで文科省の項目でいくと、全部で30項目ぐらいあったことから。それを全部と言ってもさすが多いということで目標として、10項目にどれぐらい近づけているかということで、設問を作っている。

委員ご指摘のところ、小規模の課題に関することが多いととらえるところもあるかなと思うが、意図としてはそのような考えで設問を作っている。

○委 員

確かにそうだなと。ネガティブと感じた。課題について聞くより、将来の学校についてどんなことがいいですか、など。

例えば通学路だと安全確保されているとか、マイナスじゃなくても、こんな良いことどんな良いことがいいですか、不審者対応がすごく優れているとか、問題の仕方がポジティブに、こういうの良いねと、わくわくできるような。多分趣旨は一緒だが、ポジティブな質問だったらどうかと思った。

○事務局

いいなということを出していったって、正直、できないことも含めてたくさん出たときに、どうお返すのかは非常に難しいことと考えている。

先ほどスケジュールを説明したが、本当は数年かけてやらないといけないものだと思うが、この数年間、検討委員会が立ち上がるぐらい切望されている地域もある中で、この全体をどれだけ時間をかけて、しっかりやればいいのかというところであり、できるだけ、バランスはすごく難しいが、最短距離ではないが、できるだけ効率良くしていくには、ストレートに課題をお聞きしたほうが意見としては集まりやすい。

よりよい教育を実現するためと言いながら、課題を克服していくかという説明になっているところは御指摘のとおりで、若干不十分があると言われれば、そのとおりだとは思いますが、事務局の意図としてはそういうところである。

○議 長

このアンケートの9ページに、学校施設の在り方に関するアンケート調査や目的が、施設の在り方が主目的としてあり、先ほどから御意見が出ている、よりよい教育の質の向上が直接のアンケートの項目ではないという、ちょっと回り道をしているわけではないが、施設の面から教育の在り方を考えていくという、そういうアンケートになっているため、少し分かりにくい印象を持っている。

ただ一方で、BE THE PLAYERという教育ビジョンを、先ほど意見であったように、これと一緒に載せて、ホームページ等で案内をして、見ながらアンケートを考えていくっていうのは確かに、いい方法で、私もその辺り検討頂けるといいなと思う。

あとちょっと個人的にちょっと思ったのは小学生向けのところで、例えば、16ページですが、小学校4年生の子に、理解できるかなという言葉は少しありまして、例えばQ2のA2で、常備という言葉にルビを打つとかちょっとした説明とか、このあたりは少し小学生向けのアンケートはちょっと必要かなという印象はちょっと受けました。

○事務局

最終的には小学校向けのアンケートにつきましては、小学校4年生が分かる言葉で、先生に確認をいただき、4年で習う漢字など、今回ご指摘頂いた言葉もあり、言い回しなどをチェックする予定のため、そこはきちっと修正した上で実施をしたいと考えている。

○委員

15ページのQ10について。少人数できめ細かな教育が良いと思う方は何を回答するかと、私ですと10番だけになるかなって思った。

少人数が良いと思う人は、全部課題のように受け取られないのかなと思ったもので、その辺りはポジティブに聞くか分からないが、こっち側が操作しとると思われるのは嫌じゃないかなと感じる。

変えてくださいと言うわけではないが、いろんな意見を取るにはこの13項目なのねということが一つと、児童生徒アンケートについて、ほとんどの子どもたちは学校を選べないと思う、今の現状。

でも、在り方自体が分かるかどうか分からないが、今一生懸命その学校で勉強しているけれども、ほかに考えたときに、こういうアンケートをとるのか。

Q3は聞き過ぎのような気がして、分かるのかなという気がする。

それから、大規模校のことを小規模校の子どもたちが分かるのかどうか、あくまでも想像だが、こんなならいいよねっていうのを、Q5で聞くのかというところで大人と合わせるためにこうなったと思うが、その辺り本当に小学生は、ここまで答えられるか。

○委員

関連して児童アンケートのところで。言葉が分かるようにと話が出たが、Q2の施設の安全安心の在り方で、この7つの項目から選ぶことについて、子どもたちがどのように感じてそこを選ぶのかな。大人と合わせなきゃいけないためこの項目になってると思うが。

だからここは一つ難しいなと思ったことと、例えば子どもにはQ3の6番とか先生が連携して仕事しやすいことや9番の施設の修繕とか、分かるような言葉は多分難しいな。

どんなふうにして、保護者がサポートして伝えていくかというところでQ5についても、全体的に子どものアンケートについては、内容自体が必要なデータとしているならば仕方ないのかなと思うが、ちょっと難しいかなって感じた。

○事務局

まず子どもに分からない項目があることについて、分からないということであれば、全部扱わないことであり、特にQ3の聞き方だと、大切なものを選んでくださいというような設問なので、分かるものを選んで頂ければいいというのが基本的な統計学上の考え方ということになる。

なので、分からない項目があるから、アンケート自体に問題があるとは私自身、そういうふうには考えていない。

確かに選びにくいものではあるが、選びにくいということは、設問に対しての答えとしてはそもそも選択しないものだろう考え方である。

全く違う質問にすることについては、比較ができれば良い。ポジティブにできるという考え方もあるかと思う。

正直、事務局としても、他自治体の例なども見て、もう右往左往、何回もやり直して、で、結局またここに戻ってきたおり、これに皆さまの御意見が反映されていくことが重要と思っている。

一つ、出来たアンケートをどういうふうに使っていくかと。こういうところをしっかりと想像しないと、聞いただけになって何回もアンケートをお願いするわけにもいかないの、そこも含めて議論頂ければ良い。

○議長

今の事務局の説明についていかがですか。

確かにいろいろ、子どもには少し分かりにくい表現や内容もあるかなというところもあり、少し表現の方法を工夫してもらいながら、アンケートをとっていってもらおうということと、最後はもう一つはアンケートを分析して、子どもなりに、こんなふうな見方をしていると考え方をしているというところから、課題を明らかにし構造化していくというそこから私たちがその点でしっかり考えていかないといけない部分もある。

今お話があったように、事務局のほうでも相当このアンケート項目について御検討頂いて、これ以上もう難しいって状況のようでありまして、少し表現の工夫等をして、子どもにも分かりやすい形で、少し考慮していただくということで御理解頂ければと思います。よろしくお願いします。ほかどうですかね。アンケート、その他について。

○委員

個人的に通学方法について。現在の子どもたちの通学方法について聞くと良いと思う。なぜかというと、熊が出て大変という話もあり、私の住まいは作見地区で、山田町から作見小学校で片道、子供たちで45分、50分かかる。

そうすると、熊の話が出てから親が送迎する話を聞く。作見地区もそうだが、山中地区など、今まで徒歩通学の小学生がどのくらいの数で親の自家用車を利用する通学方法に変えなくてはならなかったかを知りたい。

○事務局

先ほど委員から10年前に想像できなかったことについて私も聞きながら、親がこんなに送迎を当たり前にするようになることは、私の子どもたちの頃から考えて全く想像ができませんでした。

そこは実は設問のところで、送迎の際に安全に乗り降りができる場所という項目がこれ実は、ほかの自治体の項目にはない項目になる。

現状どうお答えするかっていうことについては、ここの設問は難しいのではという意見もある。そこを見直して、検討していきたいと思う。

○委員

あと自分が勝手に興味があることについて。

今、新しい学校を作っている自治体で、どんな学校、どんな新しい学校が日本国内で出来ているのか気になる。例えば今の固定観念で小学校はこんなものだ、学校教育を受ける場所だと。

今、山代小学校や中学校には空いてるクラスがあり、どのように活用していくかいろんな課題が出てきている。

その中で、例えばハイブリッドな建物になってる学校があり、例えば地区会館が併設されているなど、以外な事例とか、そういったものも、今すぐじゃなくても、学校ってこういう役割もあるんだみたいな情報も。

このアンケート、第2回でも良いが、ちょっと未来に見えたらいい。アンケートをとりながらも、興味が出る親世代、いろんな世代が出てくると思うので、その人たちが、いろんなその学校の在り方を考えるような、ページが今後出来たら、何かまた面白い発想に結びつくのかなと感じた。

○事務局

PTAの方に委員の就任の依頼をしたときに、先進地を知りたいっていうお話を頂いたのは覚えており、全国いろんな先進地がある。

多種多様の先進地があることから、このアンケートの結果後、構造化する中で、ここを解決しようと思うところがある程度絞れましたら、そこを解決をした先進地があればいいなと考えており、検討を進めていく中で、調べて、ご紹介できればと考えている。

○議長

本当に多くの御意見、ありがとうございました。

今頂きました御意見については、事務局と私のほうで調整をさせていただき、アンケートに反映をさせていただきたいと思いますが、それでよろしいか。
こちらのほうに一任していただくということで。

○全委員

はい。
よろしくお願いします。

○議 長

御理解頂きありがとうございました。
では、以上をもちまして本日予定していた議事は全て終了いたしました。
委員の皆様、御協力誠にありがとうございました。
進行を事務局にお返ししたいと思います。

○事務局

はい議長、委員の皆様、ありがとうございました。
次回の内部会議の確保につきましては、先ほど御説明しましたスケジュールに沿って8月を予定しております。
改めて日程調整の上、御案内を差し上げますので、またぜひご出席のほど、よろしくお願いいたします。
それでは以上をもちまして第1回加賀市立学校施設の在り方に関する検討会議を閉会いたします。
本日は誠にありがとうございました。